

# 環境農業新聞

メール:ecoagri@pure.ocn.ne.jp

## 主な記事

- 「医食農健」でシンポジウム…(1~3面)
- NON-GMトモロコシで農業再生…(5面)
- 若柳恵華さんの「日本の踊りと環境」…(7面)
- 大学校入学式で廣井氏が訓辞…(8面)

# 「医食農健」をテーマに日本の農業と食シンポジウム

農業生産法人日本豊受自然農主催



4月10日、京都リサーチパーク西地区で開催された「第5回日本の農業と食シンポジウム」。午前の部終了後、記念撮影におさまる

## NON-GMOを打ち出す 多彩な講師、充実の一日に

日本農業は農協改革、TPP、遺伝子組み換え、後継者不足、耕作放棄地増大などで大きく揺れ動いている中、明日に向けて力強いビジョンを打ち出したシンポジウムが京都で開催された。これは第5回日本の農業と食シンポジウム(日本豊受自然農主催)である。4月10日、京都リサーチパーク西地区4号館地下1階バスホールに約200名参加のもと「医食農健」をテーマに開催された。自然な種、自然な農業が人々の健康を守るという日本農業の原点ともいえることを忘れ、F1の種、農薬、化学肥料に頼ってきた結果が今の姿。農産物から得るミネラルや植物繊維が重要であり、食は、自己治癒力を高め、病気を治し予防することが分かっている。ただし農薬、化学肥料を使った農産物、形は同じだが物が違う。消費者はそこが分かっているのも事実だ。その辺りを今回のシンポジウムは農業者、女優、医師、JA農協組合長らが明確に述べていた。

シンポジウムの大会会長である農業生産法人日本豊受自然農(株)の由井貞子代表はあいさつで「私たちが健康で生きていく上で土と種が大事である」と述べた。農産物の高品質・安全な作り方を紹介した。また、養蚕の歴史や安全な作物を届けるという理念から農業生産法人日本豊

受自然農を立ち上げ、自ら農業と食に関わり活動を行ってきた」と語る。日本豊受自然農の堆肥作りは後述する通り他に見たことがないような自然に特化したもので、赤とんぼが大群で集まってくるほどだ。いも掘りに参加した人々は口を揃えて農場で驚いたこと



地球を大事にする願いを含め、地球風船を会場内でまわす

「一つに「蚊がいない」ということをあげる。トンボが食べているのではなにかと話が盛り上がったこともある。シンポジウムは食を改善し自然療法ホメオパシィを使っての糖尿病、植物油アレルギーや言葉の遅れが改善した事例が発表されたが、農薬や化学肥料を使わない農産物、食品添加物が入っていない食品がいかに重要であるかを物語る内容だった。さらに日本の花。農林水産省は今、花の需要を拡大しようとしているが、ファーマー・ストフラワーエッセンス協会理事長、であり研究家の東昭史氏の話は、それを実現できているものであった。今回は「レフ」について語り

た。「レフの花は暖かい産毛で大事な果実を包み込み、寒い冬を乗り越えて、果実を実らせる植物です。レフが持つ愛と奉仕と慈しみがエッセンスの力に表れている。さらにレフが持つ高い霊性は人間の霊性を引き上げ、人の心を癒してくれま

その後、若い農業者が登場。昨年の春に静岡農林大学校を卒業し、日本豊受自然農南農場に新規就農、一年目の宮田昭吾さんが「六次産業化・食品加工事業への挑戦」と題して農産物の生産からレトルトや冷凍食品の加工や豆腐づくりや、レストラン納入の下加工など様々な加工を行うこと、通販向け出荷なども行うことで、農家が顧客とつながって食品加工や自然農で育った野菜やハーブを使った化粧品づくりにまで行い、日本の農業

を元気にしていく取組みについて語った。次に日本豊受自然農洞爺農場の米丸輝久氏から「自家採種、在来種、固定種、自然な種にこだわる豊受洞爺農場の実践」と題して発表した。米丸氏は野菜の種採りでの苦労話をしながら、その土地にあった固定種となり、豊受在来種へ変化していったと語り、固定種のスイカ「うりこ姫」の甘さが、糖度ではなく、自然本来の在来種が固有に持つ、芳ばしい甘さを感じたと紹介した。ここでニュースとして紹介されたのが別掲のインド政府AYUSH省(CRH編纂)のホメオパシィ医学についてのインド政府の公式見解・エビデンス集である「ホメオパシィ」人に優しい癒しの科学」の日本語訳の共同出版事業について、インド政府から日本ホメオパシィ医学協会に対して正

## 日印共同出版、正式に決定

シンポジウムでは、インド政府AYUSH(伝統医学)省所属ホメオパシィ中央リサーチ評議会マンチャングラ長官から「共同で翻訳されること」が決まったことを喜んでお伝え致します。この協力事業により、ホメオパシィの面での相互協力関係も、革新的に強化されていく事でしょう」との祝辞が届いたことを紹介した。

インド政府が公式に認めたいものであり、人口12億(世界第2位)の大部分がホメオパシィの恩恵に預かるインドにとって当然の結果と呼べるものでもある。インド政府が一民間団体と共同で出版物を発行することは言うまでもない。

2面につづく